

為替週間展望 = ドル円はもみ合いながらも上値の重い展開か

[3月27日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		3月20日～3月24日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	131.85	133.00(22)	130.06(24)	130.39	-1.46
ユーロ・ドル	1.0675	1.0930(23)	1.0631(20)	1.0826	+0.0156

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
		終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	27,385.25	+51.46	日本10年債利回り	0.300	+0.050
ダウ平均株価	32,105.25	+243.27	米10年債利回り	3.427	-0.002

<来週の主要経済統計等>

- 27日 日本1月景気動向指数改定値
独3月ifo景況感指数
- 28日 豪2月小売売上高
米1月住宅価格指数、米1月S&Pケースシャー住宅価格指数
米3月コンファレンスボード消費者信頼感指数
- 29日 豪2月消費者物価指数
米2月中古住宅販売制約指数
- 30日 独3月消費者物価指数速報値
米新規失業保険申請件数、米第4四半期GDP確報値
- 31日 日本2月有効求人倍率、日本2月雇用統計
日本2月小売業販売額、日本2月鉱工業生産指数速報値
中国3月製造業PMI
英第4四半期GDP確報値
スイス2月小売売上高
スイス3月KOF先行指数
独3月雇用統計
ユーロ圏2月雇用統計、ユーロ圏3月消費者物価指数速報値
米2月個人所得・支出、米2月個人消費支出(PCE)デフレータ
米3月シカゴ購買部協会景気指数
米3月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値

【前回のレビュー】今回の金融不安に関しては、一部の銀行の特定の問題で金融システム全体に脅威を与える問題ではなく、徐々に落ち着きを取り戻すとみられる。ただ、目先は他の金融機関の問題が顕在化する可能性もあり、ドル円はニュースや経済指標に左右されながら方向感を探る動きになるとした。

【FRBの利上げはあと1回か】

3月21～22日の米連邦公開市場委員会(FOMC)では、市場予想の通り0.25%の利上げを決めた。政策金利の誘導目標は4.75～5.00%となる。金融システム不安の影響で、一部では政策金利を据え置くとの見方も出ていたものの、インフレ抑制を優先した。

声明文からは「継続的な利上げが適切」との文言が削除されて、「いくらかの追加引き締めが適切となる可能性」といったマイルドな表現となった。また、保有する米国債とMBS(住宅ローン担保証券)を同ペースで減らし続ける意向を示すとともに、投票は全会一致であるとした。

米連邦準備制度理事会（F R B）のパウエル議長は記者会見で、「安全で健全な銀行システムを維持するためにあらゆる手段を講じる用意がある」と述べた。加えて、「少数の銀行で深刻な問題が浮上した」「F R B、財務省、米連邦預金保険公社（F D I C）は先に決定的な行動をとった」と述べた。

さらに「前回のF O M C以降、経済指標は想定を上回る強さを見せており、経済活動やインフレに勢いがみられる」「F O M C参加者は比較的緩やかな経済成長を見込んでおり、年内の利下げを見込んでいない」「必要があればさらに利上げする」との見解を示した。

政策金利の見通し（いわゆるドットチャート）では、2023年末の政策金利見通しを5.125%としており、前回（12月）と同水準となった。2024年末の政策金利は4.375%となった。実質国内総生産（G D P）や個人消費支出（P C E）などの見通しは下記の通り。

F O M C経済見通し（）内は昨年12月時点

<実質G D P>

23年 0.4%（0.5%） 24年 1.2%（1.6%）

25年 1.9%（1.8%）

<個人消費支出（P C E）>

23年 3.3%（3.1%） 24年 2.5%（2.5%）

25年 2.1%（2.1%）

<P C Eコア>

23年 3.6%（3.5%） 24年 2.6%（2.5%）

25年 2.1%（2.1%）

F O M Cを受けて、米連邦準備制度理事会（F R B）による利上げはあと1回との見方が広がり、利上げの着地点が見えてきた。この結果、F O M C後に米長期金利は低下しており、ドルは売られやすい展開となった。22日にドル円は131円近辺まで下落して、その後もドル円は軟調に推移して130円台前半まで下落を見せた。

金融システム不安に関しては、一部の銀行の特殊な事情との見方も広がっており、警戒感はやや後退している。F R Bによる利上げがあと1回との見方から、米長期金利が上昇しにくく、ドルも伸び悩みを見せやすいとみられる。こうした中、目先は米経済指標の動向に左右されやすい展開が見込まれる。米経済指標に振り回されつつも、利上げ停止が視野に入ってきたことで、ドル円はもみ合いながらも上値の重い展開となりそう。ドル円の目先の予想レンジは、128.00～134.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、27日に日本1月景気動向指数改定値、28日に米1月住宅価格指数、米1月S & Pケースシラー住宅価格指数、米3月コンファレンスボード消費者信頼感指数、29日に米2月中古住宅販売制約指数、30日に米新規失業保険申請件数、米第4四半期G D P確報値、31日に日本2月有効求人倍率、日本2月雇用統計、日本2月小売業販売額、日本2月鉱工業生産指数速報値、米2月個人所得・支出、米2月個人消費支出（P C E）デフレーター、米3月シカゴ購買部協会景気指数、米3月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

【ユーロドルは一段と上値を追う展開か】

22日に欧州中央銀行（E C B）のラガルド総裁は講演で、「インフレを2%に戻す目標に妥協はない」「金融機関に流動性を供給する用意がある」などと述べた。ラガルド総裁は前回（3月16日）のE C B理事会後の記者会見でもインフレと戦う姿勢を強調しており、その姿勢にブレはない。

スイスの金融大手クレディスイスの経営不安はひとまず落ち着きを見せている。こうした中、F O M Cを受けてのドル売りの影響で、23日にユーロドルは1.09台前半まで上昇した。上昇が続いてきたことで上げ一服となっているものの、ユーロ圏での経済指標は強弱まちまちながら、堅調さを見せているものもある。インフレ抑制のためにE C Bの利上げ継続姿勢が見込まれることやドルの軟調さを背景にユーロドルは一段と上値を追う展開となりそう。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0600～1.1000ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、27日に独3月I F O景況感指数、28日に豪2月小売売上高、29日に豪2月消費者物価指数、30日に独3月消費者物価指数速報値、31日に中国3月製造業P M I、英第4四半期G D P確報値、スイス2月小売売上高、スイス3月K O F先行指数、独3月雇用統計、ユーロ圏2月雇用統計、ユーロ圏3月消費者物価指数速報値などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。